

おるご〜る

No.
205

男女共同参画

わこうプラン推進委員だより

岡総務人権課 ☎424-9094

だれもが地域で 学べるように

わこうプラン推進委員
中古賀 ゆき

今夏、「みんなの学校」というドキュメンタリー映画を鑑賞した。この映画は障害があっても、貧困であっても、暴力をふるう子どもも地域の小学校で一緒に学び、共に成長していく様子が映し出されている。映画に登場する校長先生は、「学力だけに焦点をあててしまえば、地域の学校で学ぶ場が奪われてしまう子どもが増えるのは当たり前。学校は子どもが安心して学び合える居場所を一番に考えなければ。」と話している。学習する権利を保障しているのだ。この小学校は「インクルーシブ教育」に取り組んでいるように私にはとらえられた。インクルーシブ教育とは、障害の有無によって学ぶ場所が分けられるのではなく、誰もが自分に合った配慮を受けながら地域の通常学級で学べる「すべての子どものための教育」という意味だ。

映画鑑賞の数日後、かつての教え子から久しぶりに連絡があった。彼女は小学5年生の時、精神疾患で通常学校に通えなくなり、病院内に設置されている院内学級に通うことになった。院内学級では

学年も違えば進度も違い、学力の定着もさまざまな子どもが通ってくる。当時、長い入院生活や闘病で辛い思いをしている子ども達が笑顔で過ごせるように願っていたのを思い出す。その彼女は、振り返れば、院内学級は自分を認めてくれる、自分らしさを出せる場所だったという。そこで過ごしたことが後押しをし、今は障害のある子ども達を預かる施設で働き始めたそうだ。彼女も「子ども達のためになんとかしたい」と動き出していた。

子どもは成長の過程において、人格を形成し多様な価値観を習得する。男女共同参画社会の実現のためには、男女平等の理念や、社会的、文化的に作られた性差（ジェンダー）だけでなく、障害の有無や人種、民族、国籍などに関わらず、自らの意思によって多様な生き方の選択ができるような教育や学習の場を提供していく必要があると感じている。

子どもが地域で育ち、学んでいけるために何が一番いいことなのかを考えていくことがこれからの教育では大切だと思う。